

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870500410		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	西
所在地	〒315-0023 茨城県石岡市東府中1-10		
自己評価作成日	平成26年9月17日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870500410-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年11月6日	評価機関 決 済 日	平成27年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホール内の作りが広がっていることを利用し、ボランティアのカラオケや踊りを楽しみ、コミュニケーションをとり癒しの場となっている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の運営母体が医療法人のため、医療連携が24時間体制及び救急搬送体制が整っており、利用者や家族等、職員の安心につながっている。 職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活ができるように支援をしている。 管理者は職員と日頃から何でも話せる人間関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を踏まえその人らしく生活していけるよう、職員全員が事業所理念を共有・実践につなげている	法人の基本理念のほか、「優しい笑顔とおもいやり」を事業所独自の理念としているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容までには至っていない。 理念を各ユニットの居間に掲示するとともに、職員は理念を日々各自で確認するほか、ミーティング時に再確認をし、共通認識のもとで実践に努めている。	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺に散歩にでかけ地域の方と挨拶を交わしている	利用者と職員は毎日の散歩時に地域の人々と挨拶を交わしながら、近隣のコンビニに立ち寄るなど、交流を深めている。 踊りやカラオケなど地域のボランティアを月1回受け入れているほか、地域の専門学校での介護福祉体験を受け入れるなど、利用者が地域の人々とつながりながら暮らせるように支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な研修、会合に関わりながら、認知症ケアの取り組みについて学び、活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に開催し、情報交換や意見について職員が共に共有し、質の向上に活かしている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、区長、統括室長、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動内容や行事予定、入居者状況を報告しているほか、参加者と意見交換を行っている。 「運営推進会議の後に消防訓練をしてはどうか」との意見を受け、職員会議で検討した結果、運営推進会議後に避難訓練を実施するなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に於いて、事業所の取り組みやケアサービスの実情など情報交換を共有し、協力関係が得られるよう、取り組んでいる	管理者は運営推進会議や3ヶ月に1回開催される地域密着型介護サービス事業協議会を利用して、市担当者を利用者に関する相談をするほか、生活保護受給者の入居手続きで分からないことを直接市の福祉課に出向いて相談をして助言を得るなど、情報交換をして日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束について学び関わりを持ちながら拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は身体拘束マニュアルを作成し、ミーティング時に職員に話しをしているが、職員を対象に身体拘束の内容とその弊害についての研修を実施するまでには至っていない。 前に利用者が玄関から出て警察騒動になった経緯があるため、玄関の内側から施錠をしているが、家族等からは書面で同意を得るまでには至っていない。 2名の利用者が車いすからの滑り落ち防止のため、家族等から書面で同意を得たうえで、ベルトを着用している。 経過観察記録や3ヶ月毎に再検討を行っている。	管理者は職員を対象に身体拘束の内容とその弊害についての研修を行うことを期待する。 玄関を含め、まずは施錠をしない見守り体制で対応を試み、無理な場合には書面で家族等から同意を得て施錠をすることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はミーティング時など虐待防止法を共有し、機会があれば研修にも参加し、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は自立支援事業や成年後見制度について情報を得、又、学ぶ機会がある時には進んで学び活用できるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される利用者や家族に不安や疑問点など理解が得られるよう説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者家族の意見や要望を聴く機会もあり、又、玄関には意見箱を置き運営に反映させている	利用者からは日常の問い合わせや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、イベント時などに意見や要望を聴くように努めているほか、苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に利用者や家族等に説明をしている。 「食事の前にアクエリアスを飲ませてほしい」との家族からの要望を受け、意見を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士日々意見交換をしながら、運営に反映させている	管理者は月1回職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員から出た意見等を検討し、食器洗い洗浄機やコピー機の購入、雨漏り対策、勤務体制の変更など、運営に反映させている。 管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々努力し、働きやすい職場に向け職場環境・条件に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員はできる限り研修会に参加し、知識や技術を身につけていくよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市役所の参加もある地域密着型介護サービス事業者協議会に加入し、その中で研修を設け、質の向上に励んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の悩み・不安を聴き、本人の心身の状態や思いに向き合い、安心して生活ができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・家族と不安や要望などを聴き、職員と気軽に話せるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族と会話の中、必要としていることを聴き対応に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に生活し、コミュニケーションを図り関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を報告したり、以前の生活歴を聞いたりして、関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来所された時には、気兼ねなく会話ができ関係が途切れないよう支援している	職員は利用者や家族等の話から利用者の生活歴や馴染みの人や場所の把握に努めているが、アセスメント表に詳しく記載して活用するまでには至っていない。 職員は利用者の馴染みの人がいつでも気楽に来訪ができるよう、お茶を出して接待をするとともに、友人や家族等からの電話を取り次いでいる。 家族等の協力を得て、利用者が自宅へ帰れるように支援をしている。	利用者の生活歴などを把握するためにも、アセスメント表に詳しく記載することを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態に合わせ余暇活動や共同作業を共に行う事により、コミュニケーションが図れるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に立ち寄り相談できるよう関係を心がけている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや本人らしさが、表現できるような雰囲気作りを心がけている	職員は利用者がその人らしい暮らしが続けられるように日常の関わりや会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や仕草から、利用者の思いや意向の把握に努めるとともに、職員会議で検討して職員で共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活してきた暮らしを把握し、その人らしく生活が送れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より生活状態を把握し無理なく過ごして行けるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士意見交換し、利用者がより良く暮らす為、利用者の視点にたった介護計画になるよう努めている	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、担当者会議で話し合い、計画作成担当者が意見をまとめて作成するとともに、家族等に説明して確認を得ている。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月を基本とし、3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活において、職員の気づきや工夫を記録し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に生じるその時々状況に必要な支援ができるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるよう情報交換し地域の方と協力関係を築いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期的に外来受診・訪問受診を行い、希望すれば訪問歯科も受診している	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は可能だが、現時点では全ての利用者が協力医療機関の医師を主治医としており、2週間に1回訪問診療が受診できるほか、希望者には協力医療機関への週1回の通院を支援するとともに、結果を家族等に報告している。 毎週協力医療機関から看護師が来訪し、全利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より訪問看護師とは気軽に相談できる状況にあり関係づくりを行っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と協働しながら、家族とも関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末きを迎えた場合には、家族と十分な話し合いをし、関係者と連携を取り支援に取り組んでいる	契約時に看取りを行わない旨を説明するとともに、「ターミナルケアに関する説明及び同意書」を作成し、利用者や家族等に説明をして同意を得ている。 重度化した場合には家族等や管理者、職員、同一法人の医療機関で話し合いながらその都度対応することとし、家族等の同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え職員が初期対応できるよう日頃より取り組みに向け支援している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、の協力を得て、避難訓練・消火器の使い方を行っている又、時には地域の民生委員や区長の参加もお願いしている	消防署立会のもと夜間を想定した避難訓練を含め、年2回防災訓練を実施するとともに、訓練には地域住民の参加を得ている。 避難訓練実施計画書や防災訓練結果報告に、避難訓練で明らかになった課題を明記しているが、避難訓練実施記録を作成するまでには至っていない。 災害に備えて食料や飲料水を物置に備蓄している。	避難訓練の実施記録を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から利用者本人の人格やプライバシーを損ねない対応に心がけている	職員は利用者の個性やこだわりを把握し、一人ひとりの人格を尊重しつつ、排泄介助や入浴介助時には小声で声かけ誘導をするなど、周りの利用者にも配慮しながら対応に努めている。 個人情報を使用する場合は、使用目的を明記して利用者や家族等に書面で同意を得ている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が訴えたいことが引き出せるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の流れはあるが、その人の希望に添って暮して行けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が日々生活する中で衣類、靴、など動きを考え家族と相談のうえでおしゃれができるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が音楽の流れる中で楽しく食事が摂れるよう配慮している	献立は運営母体の管理栄養士によってカロリー計算されたもので、職員が調理をして利用者と一緒に同じ食卓を囲みながら温かい食事を摂っている。 利用者は能力に応じて配膳や後片付け、テーブル拭き、食器拭きなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 敬老の日やお誕生日などに行事食を取り入れたり、花見や納涼祭に手作りのお弁当にするなど、食事が楽しみなものとなるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分量を確保できているか、確認し状態に合わせた支援に心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった口腔ケアを食休み後本人の力で行える方でも見守りし、難しい利用者に対しては介助で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し、時間を見て誘導しトイレでの排泄できるよう支援している	職員は排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。 おむつを使用していた利用者に対しても、職員は尿意を表す仕草を確認しながらトイレ誘導を試みることにより、リハビリパンツに改善をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量の確保と軽い屈伸・歩行運動を行い便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者が自分のペースでゆっくり浴槽でくつろぎながら入浴できるよう支援している	風呂は利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制になっており、基本として週2回入浴ができるように支援をしている。 入浴を拒む利用者には強要はせず、トイレ誘導をしながら誘ったり、声をかける職員を替えたりして工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やその時々状況に応じて安心してゆっくり休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが処方されている薬の目的・副作用を職員が把握し誤薬の無いよう服薬介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした役割を支援し行事や余暇活動に参加し楽しみながら気分転換をはかれるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて屋外散歩に出かけ季節や地域のふれ合いを感じ又、家族の協力を得て外出ができるよう支援している	天気の良い日にはに事業所周辺を散歩したり、中庭でお茶を飲んだりして五感を刺激し、四季の移り変わりを楽しめるように支援をしている。 事業所のマイクロバスを利用して花見やぶどう狩りなどに出かけるほか、利用者と職員は一緒に日用品の買い物に出かけたり、週1回の外来受診の帰りにスーパーに立ち寄りして気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望があれば事業所で預かっている中からコンビニなどに出かけ買物をし、支払いを支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を繋いだり手紙を投函をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが不快や混乱を招くことなく、温度や季節感を上手に取り入れ、過ごして行けるよう工夫している	玄関先に季節の花を植えた鉢が置いてあり、玄関を入ると風景写真や利用者と一緒に作った絵手紙などが飾られており、温かい空間を演出している。 食堂兼居間は明るく広々としており、ソファや椅子を配置したり、小上がりの畳のスペースを設置するなど、利用者が居心地よく過ごせるように配慮をしている。 居間の大きな窓からはウッドデッキに自由に出ることができ、開放感のある空間となっており、利用者は気軽に外気浴を楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室は個室になっており、自分の時間を自由に過ごし又、ホールではテレビを観たり利用者同士雑談して過ごせるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品々が持ち込まれ、居心地よく過ごせるようを配慮している	居室は介護用ベッドや洗面台、カーテン、エアコンが備え付けられている。 利用者は居室にテレビや椅子、箆笥、位牌など使い慣れた物品や大切な物品を持ち込んでいるほか、家族の写真などを飾って居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じ行きたい場所がわかるよう目印をつけたり安全に生活が送れるよう工夫している		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ひまわり

作成日 平成27年3月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	管理者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成する	常に立ち戻る根本的な考えかたする	ミーティングで話し合い管理者と職員は共有し、作成していく	6ヶ月
2	6	管理者は職員を対象に身体拘束の内容とその弊害についての研修を行うこと。玄関を含め、まずは施錠をしない見守り体制で試み、無理な場合には書面で同意を得て施錠をすること	身体拘束排除に関わる研修していく	玄関の施錠の同意書をもらうと共に施錠せず音のでも対応し、身体拘束排除マニュアルについて研修の実施	現在実施している
3	20	利用者の生活歴などを把握するためにも、アセスメント表に詳しく記載する	地域に暮らす馴染みの人や物を把握し、継続的な交流ができるためにも詳しく記載する	入居時に本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握していく	現在実施している
4	35	避難訓練の実施記録を作成すること	作成はしているがわかりやすいものに変え記載していく	写真や参加した方の名前なども記載していく	現在実施している
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。